

和歌山市は江戸期の1619年、徳川家康の第10子徳川頼宣が55万5千石を領して和歌山城に入り、尾張・水戸・紀州の徳川御三家が成立した。その徳川頼宣が景観を愛し、開発をさせなかったのが、古来からの景勝地である「和歌の浦」である。

### 和歌の玉津島神社

和歌の浦は和歌山市街の南方、和歌浦湾に面した一帯を指す。和歌の浦の歴史は古く、万葉の頃から美しい景勝地名高く、歌人たちに愛され詠われた景勝の地である。



愛でたという奠供山(てんぐやま)からは和歌浦が一望できる。山頂には「望海楼遺址碑」があり、旅館「望海楼」が設置した日本初のエレベーターを知ることができる。奠供山のふもとには和歌の神を祀る玉津島神社が鎮座する。古くから和歌の神様として多くの万葉歌人の信仰を集めてきた神社で、境内には山部赤人が724年、聖武天皇行幸の際に玉津島を詠んだ万葉歌碑や、鳥居のそばに小野小町が着物の袖をかけたと言

## 万葉からの景勝地、徳川ゆかりの「和歌の浦」 景観、歴史文化遺産を承継

わる小野小町袖掛屏がある。徳川時代の歴史的遺産としては紀州東照宮が挙げられる。和歌浦随一の名所で、徳川頼宣が父家康を祀るため権現山中腹に建立したものであり、社殿は桃山時代の遺風を受けた江戸初期の代表的な



④ 奠供山から北西方面を一望した和歌の浦 ⑤ 和歌の神を祀る玉津島神社 ⑥ ⑦ 関西の日光」と呼ばれる紀州東照宮 ⑧ ⑨ 日本の三管廟といわれる和歌浦天満宮

一般財団法人日本不動産研究所 ⑤  
**地域資源を生かす**  
～まちづくりからインバウンドまで

### 和歌山県和歌山市

重要文化財建築物である。また漆塗り、極彩色の精巧な彫刻、狩野、土佐画派の絵によって荘厳された豪華さは「関西の日光」と呼ばれている。祭典では和歌祭といわれる神輿渡御祭が有名。東照宮創建以来約400年、現代に伝承されているこの祭りは毎年5月に行われ、和歌山市全域を祭り一色に染めている。

### 環境保全とレジャー

そつした観光、宅地開発で影響を受けた景観の保全や阪神都市圏に近い地の利を生かして和歌浦は近年、レジャー、レクリエーション拠点としての開発が進められている。景観保全では08年に具指定文化財に指定され、10年に国の名勝に指定された。13年には和歌山市の景観重点地区に指定され、和歌の浦の歴史的風致景観が保全されることとなった。また民間各種団体による保全活動も行われている。更にレジャー、レクリエーション拠点として「和歌浦ベイマラソンwithジャズ」などの取り組みも行われている。

このように和歌の浦は時を超えて、自然的景観や歴史的遺産が継承されている。今後ますます自然、文化的遺産が後世へと受け継がれていくことを期待したい。

(和歌山支所、不動産鑑定士・土田正顕)